

AMIDA HOUSE

正会員 河内 一 泰 君

御殿場市に建つこの建物は富士山の眺望を期待して設計された住宅で、建物高さも居間から隣家越しに富士山がのぞめるよう決定されている。ガルバリウム鋼板で覆われた外観のみならず、内部空間の形も極めて単純明快であり、南北 7,280mm×東西 8,645mm、高さ 9,550mm の縦長の直方体内部を大きく一室とし、その東西方向にスキップフロアをジグザグに重ねたものとなっており、与えられた名の通り、断面形状が床によって「アミダくじ」となっている。それらの床位置は、単にその形の面白さのみならず、空間の見通しなどを配慮して上下を調整して決定され、各床の空間の性質（開放性（閉鎖性）など）に違いが与えられている。さらに、太陽の動きや季節の変化に従った様々な暮らし方が垣間見える魅力的な住宅となっている。

（「作品選集 2013」選評より）